

松本先生の論文に興味を惹かれ、免疫力を下げないように
治療・心理面・食事に気をつけている方の手記。

「潰瘍性大腸炎からクローン病へ (経過報告)」

匿名希望 53 歳

2017 年 10 月 4 日

膠原病と近所の病院で診断されて、松本医院で 2016 年の 3 月から治療を開始しました。今年 2017 年の 9 月で 1 年半が過ぎました。治療の開始以前は数種類の薬を服用していましたが、あまり効果が得られず、クローン病と貧血で酷く悩まされていました。そして、松本医院で治療を始めましたが、最初の一年間は貧血が更にひどくなり、痔瘻、体の痛み、足のしびれ、低体温や食欲不振等で苦しみ、ほぼ毎日が寝たきり状態でした。ですが、ここ半年の間で徐々に体調が良くなり始め、時にはクローン病の事を忘れてしまうくらい普通の食事を取るようになりました。現在では家事労働等を行いながら普通の生活に戻ってきています。

この病気の発端は 2013 年から血便が見られ、内視鏡の検査の結果から直腸型の大腸性潰瘍炎と診断された事が始まりでした。2014 年 6 月になっても出血が止まらないので、病院の先生からステロイド系注腸剤を勧められました。実施したところ一週間後に大量の出血をしました。その後、一時中止して、別のステロイド系注腸剤に変えましたが、やはり一週間後に大量に出血しました。

この頃から疲労感を覚える様になり、その年 2014 年 7 月末の休日、急に胸が苦しくなり体に力が入らなくなりました。その後、救急車で病院に運ばれ、検査したところ心膜炎と診断されました。胸が苦しく体温が徐々に上がり 40 度前後あったので、モルヒネ、鎮痛剤それにコルヒチンを投与しました。ですが 6 週間あまりにわたり、夜になると 38 度から 40 度の熱が続きました。

8 月末には心膜に水がたまりすぎたので穿刺を行い排液しました。この頃から大腸炎の炎症は止まり始め、出血も止まりました。9 月半ば頃になると熱が 37 度から 39 度の間に少し下がりましたが、今度は関節リウマチで、右手の痛みと腫れが酷く、更に、咽頭炎で声が出にくくなりました。リウマチ科や咽頭科の専門医で診察を受けましたが、どちらも症状が進まなければ経過観察をしていくだけと云う事でした。

その後も、7月末から投与しているコルヒチンと鎮痛剤は引き続き服用しました。11月に入ると右手の腫れと痛みが和らぎ始め、声も少しずつ出しやすくなりました。

2015年1月に心エコー検査をしたところ、心臓内科の先生から、コルヒチンと鎮痛剤を止めていいだろうと言われ、今まで服用してきた薬を中止しました。ところが3月に入ると、今まで良くなっていた大腸炎が、以前以上に悪化しました。更に貧血症状も現れ、外出することも難しくなりました。消化器科の先生に尋ねたところ、ステロイド系抗炎症薬を勧められ、止む無く同意し3ヶ月間にわたり服用しました。ですが思ったほど効果は見られず、3ヶ月目に入りようやく炎症が治まり始めました。その後、6月からは治療薬を変え、免疫制御剤と生物学的製剤を摂取することになりました。薬を変えてからは外出もできるようになり、散歩もするようになりました。ですがそれもつかの間の喜びでした。

2016年の1月に入り、大腸炎の症状が再び悪化してきたので、根本的に治療法を変えるべきかもしれないと思いインターネットで検索を始めました。潰瘍性大腸炎について調べていると、松本先生の論文に興味を惹かれました。

一つは自己免疫と免疫制御剤とヘルペスウイルスの関係でした。私が服用していた免疫制御剤や、鎮痛剤の体験から感じていましたが、良くなったり悪くなったりを繰り返し、病気の症状は時間の経過とともに酷くなっていたからです。また体の各所に違った症状が発生するので何かの細菌がいるのでは・・・とっていました。ですが、病院での細菌検査では何も認められませんでした。先生のヘルペスウイルスについての論文を読んで、何故このウイルスが様々な症状を起こし、何故、通常の検査をしても認められないのかが納得できました。潰瘍性大腸炎にかかる少し前から仕事や私生活で無理をしていたので、その間に免疫が下がりストレスによってホルモンが放出されて、ヘルペスウイルスが増殖したのでは・・・と感じました。

もう一つ興味を惹かれたのは、ヘルペスウイルスに治療薬は無く、免疫を上げる以外には制御することはできない事でした。以前、知り合った医者がこんなことを言っていた事を思い出しました。“皆は医者が病気を治してくれると思って頼んでくるのだが、私は神様ではないんだ。私は、ただ痛みや苦痛があれば症状を和らげる薬を処方してあげるだけなんだよ。あとは良くなるように祈っているだけなんだ。その後、免疫が上がり病から解放される人もいし、また、そうでない人もいる。”と言って彼は患者を励ますようにしているそうです。その事を思い出しながら、松本先生の論文の中で書かれている自己免疫疾患について、自分なりに納得したつもりです。私の場合は、薬を服用しても効果が見られないので“その薬が私の免疫を妨げているに違いない”と考えていました。それならば“自己免疫を上げるしかない”と思い、現在行っている治療法を実行することにしました。

体が思うように動かず潰瘍性大腸炎に加え、貧血で倒れる事、不眠症、そして、よく低体温になり34度台に落ちることもよくあったので、免疫制御剤と生物学的製剤を同時に止める事に少し不安を感じていました。ですが松本医院に行く2週間前、2016年3月の始めに二種類の免疫制御剤を止めることにしました。そして、リバウンドが一ヶ月後くらいから始まりました。症状が次第に悪化して行き、食欲不振、貧血症状と下血も更に酷くなり、熱も38-39度位に上がり、一日中ベッドの中で動けない状態でした。この治療を初めて三ヶ月ほど経った2016年の夏になると症状が変わり始め、体のあちらこちらから痛みが出て来ました。その痛みで、寝がえりもできない状態が一ヶ月ほど続き、37-38度位の微熱が数週間にわたりました。更に足のしびれも現れて、それは現在も続いています。

2016年の8月に血液検査で、ヘルペルウイルスを調べたところ、サイトメガロウイルスとエプシュタインバールウイルスと水痘ヘルペスウイルスが陽性でした。先生に痔瘻の初期症状があることも伝えたところ、私の場合は潰瘍性大腸炎ではなく、クローン病だということでした。私が思うには、炎症を繰り返しているうちに炎症部分が広がったのだと思います。先生の診断では治療していくには時間がかかると言っていました。現在も治療を始めてから抗ヘルペス剤と漢方薬、灸を続けています。

その後、現在まで2回ほど数日間だけ37-37.5度くらいの微熱がありました。時間の経過とともに微熱も以前ほど上がらなくなり、日数も短くなってきています。足はしびれに伴い時々痛みが走りますが、足の先端部分だけになってきました。右手の関節リウマチは、今ではほとんど後遺症もなく動かせるようになりました。心膜炎は、現在でも一年に一回、心エコー検査を行なっていますが問題も起きず、検査の回数も減りました。松本医院で、私の心膜炎は“ヘルペスウイルスの可能性がある”と言われ、その旨を心臓内科の先生に伝えたところ、とても興味があるとの事でした。検査の結果で、サイトメガロウイルス抗体が下がるに連れて、クローン病を気にせず色々な物を食べるようになりました。ですが、たまに下痢を起こすこともあります。体重は、病気になる前から比べると一時は13kg減りましたが、この半年の間に3-4kgは戻ってきています。血液検査の結果では、少しずつ血清鉄が上がってきて以前のように突然倒れる事はなくなりました。貧血症状は感じませんが、血清鉄はまだ標準値まで達していません。一年半前、アルブミンも標準値以下でしたが、今では標準値に入りました。今もなお自律神経失調症のような症状があるので、ヘルペスウイルスが神経を邪魔しているのだと思います。

この治療を始めて一年半が過ぎ、当時よりも体が楽になってきました。ですがサイトメガロウイルスは免疫が下がると、再び暴れだすので、免疫を上げるよう漢方と灸を行いながら生活、心理面や食事等に配慮していくつもりです。





